芦屋市議会議長 中島 健一 様

総務常任委員長 浅海 洋一郎

総務常任委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告します。

記

- 1 日 程 令和7年10月14日(火)~10月15日(水)
- 2 視察先及び チャットGPTの活用について(神奈川県横須賀市) 視察項目 ソーシャル・インパクト・ボンドの導入効果について (群馬県前橋市)
- 3 参 加 者 委 員 長 浅海 洋一郎 副 委 員 長 福井 利道 委 員 岩岡 りょうすけ、中村 亮介、 ひろせ 久美子、中島 健一、帰山 和也 随 行 市議会事務局議事調査課 平井 和樹
- 4 視察報告書 別紙のとおり

以上

令和7年度 総務常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和7年10月14日(火)14時00分 ~ 15時30分
視察先	神奈川県横須賀市
視察内容	チャットGPTの活用について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	生成AIを活用する先進自治体の具体的な施策を学ぶため
調査概要	・横須賀市役所内の生成AIの活用状況 令和5年度から市役所内での導入・普及を進め、現在は約3,800名の職員中約2,300名(約60%)が利用している。また、活用する年齢層は20~30歳代が多いが、50歳代も4割程度の職員が活用しており、幅広い世代で生成AIの利用が見られる。
	・行政内の普及の取組 チャットGPTの研修会を行うほか、生成AIの活用コンテストの開催、内部で開 発したチャットボット「ニャンペい」に対しあえて不適切な発言を引き出すホワイト ハッカーコンテストを開催して、自主的に職員がチャットGPTに向き合う意識を醸 成している。
	・生成AIによる市長アバターの作成 市長の公式会見をAIに読み込ませ、アバターを生成し、言葉を打ち込むことでア バターが身振り手振りをしながら市長の声を模してその言葉を発する。災害時対応の 会見や英語テキストを読み込ませ、外国人向けに市長記者会見を実施するなど、より 多数の方に伝わりやすい環境づくりを進めている。翻訳した内容は不適切な内容が含 まれないか、外国人職員が確認した上で発表するなど、生成AIは活用しつつ不備の ないように体制を整えている。
	・生成AIによる認知症予防 8月からの取組でPCやスマートフォンを活用して生成AIと会話する認知症予防音声サービスを進めている。聞き取った言葉を読み取り、適切に生成AIが返事を作成して音声で会話をすることで利用者の脳を活性化させて認知症予防に取り組むもの。
	・職場内資料の作成に有意 外部向けに発信するものとしては精査が必要であったり、著作権との関係など法整 備が進んでいない側面から生成物の取扱いは慎重にならざるを得ない一方で、内部資 料としては動画や画像の作成、文章のたたき台の作成など職員の作業時間を削減する とともに、より具体なイメージを伝えることができ、打合せの効率が上がっている。
所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)	チャットGPTはこれまでスキルのなかった絵、画像、動画、音楽作成が可能となり職員一人一人の業務の幅が広がる手段となっている。今後の業務効率の改善や行政改革になくてはならないものになると推測できる。また、同時に現時点では課題もあり、先進自治体においても外部に向けた発信には慎重な姿勢を示しており、あくまで生成AIはAIを活用してゼロからイチを生み出すために利用するものとして活用すべきものである。横須賀市はAIに内部情報を使用することは控え、やはりこれまでと同様に行政情報は秘匿すべきものとして厳重に取り扱うが、同時に禁止事項もできるだけ設けないようにし、職員には自由な使い方を進める方針としていた。 生成AIの活用においては、自由な発想が個人の能力を飛躍的に向上させるものであると認識し、あらゆる生成AIサービスを選択しながら本市においても活用方法を推進していくよう検討してもらいたい。

令和7年度 総務常任委員会 行政視察報告書

視察日時	令和7年10月15日(水) 10時00分 ~ 11時30分
視察先	群馬県前橋市
視 察 内 容	ソーシャル・インパクト・ボンドの導入効果について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	業務委託の新しい取組を学ぶため
調査概要	・前橋市アーバンデザインの計画策定とその背景 前橋市内に拠点を置く事業所、事業者が集まり、民間主体でまちづくりを進めよう とする「太陽の会」が2017年に結成された。発足当初より各事業者が純利益の 1%もしくは最低100万円の寄附を市に行うなどの活動をしているほか、4つの部 会を立ち上げ、グランドデザイン、コミュニティづくり、開業支援、広報といった地 域活性化につながる活動を行っている。2025年7月で65社が参画している。 太陽の会から寄附されている資金を有効に活用するため、前橋市では民間主体のま ちづくりの指針として前橋市アーバンデザインを策定。民間主体を前提にし、既存の 行政計画にとらわれず民間活力が生きるよう、全体的な方向性、長期的な理念の共有 と可視化をする必要があると考えた。 ・実現に向けた取組
	アーバンデザインを実現していくために、官民それぞれがどのような行動を取るべきか役割分担をするために、ワークショップを開催した。事業者間でもコミュニティづくりや勉強会を定期開催し、地域一丸となって取り組む土壌作りをしている。地域の方々には、市街地の通り沿いにベンチを設置したり、植栽を設置したりするなど、今後の事業展開をするための空間づくりに協力してもらっていた。
	・都市再生推進法人「前橋デザインコミッション」設立 上記の計画に基づき、市内の寄附により集まった3億円の活用と民間主体の地域活性化の推進のため、前橋デザインコミッション(MDC)を設立。市内事業者等が参画し、前橋市の中心市街地をエリア分けしてプロジェクトを推進している。 ボードゲームイベントやフリーマーケットの開催、物件と事業者のマッチング、事業者育成や広報活動など、にぎわい創出と地域発展の活動を行っている。
	・SIB (ソーシャル・インパクト・ボンド)の導入 民間団体であるMDCに「SIBによる前橋市アーバンデザイン推進業務」を業務 委託した。国内では初となるまちづくり系のSIBであり、成果指標は事業エリアの 歩行者通行量をカメラで測定し、ロジックモデルにより中間アウトカム〜最終アウト カムを設定している。具体的には市街地中心となる馬場川通りにトラフィックカウン ターを設置し、コロナ禍以前の通行量約45,000人(1か月間)を基準とし、約 50,500人以上を最高評価としている。結果、2024年6月に51,000人 を記録し最高評価となった。
所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)	SIBや民間活力導入の背景には「太陽の会」といった地域のまちづくりにおける意識の高さがあった。前橋二十五人衆といった江戸時代から続く郷土愛を持った事業者が多くいること、地域のために寄附をしたり、体を動かすことを喜びと感じられる土壌を育成することが行政に求められており、アーバンデザインの策定など前橋市は民間活力を生かしやすい方針を策定したことが今回のSIBの業務委託推進に向けてもよい道筋を立てている。まちづくりにSIBを導入することの難易度が高いことは認識したが、本市においても前橋市に近い土壌はあるように思い、今後の行政の民間活力導入の自由度の高い計画の立てする推りられるとる者をでいます。

画の立て方を進められるよう考えていきたい。



横須賀市役所を訪問しました。

視察先①

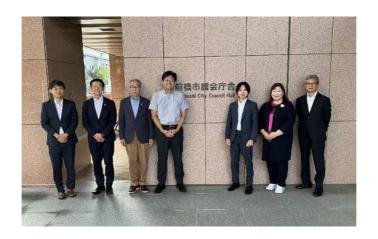
1 0 月 1 4 日神奈川県横須賀市



横須賀市デジタル・ガバメント推進室の職員の方にご説明いただきました。

視察先2

1 0 月 1 5 日群 馬 県 前 橋 市



前橋市役所を訪問しました。



前橋市市街地整備課の 職員の方にご説明いた だきました。